

仁科芳雄博士とそのふるさと岡山県里庄町の取組みについて

田主裕一郎 (Tanushi Yuichiro)

「日本の原子物理学の父」仁科芳雄博士（1890～1951年）のふるさと岡山県里庄町では、（公財）科学振興仁科財団が中心となり仁科博士の顕彰事業を展開しています。よく誤解されるのですが、当財団は有名な仁科記念財団とは別の団体です。

仁科家は浜中村（現・里庄町浜中）で代々庄屋を務めていました。仁科博士は高等小学校を卒業する14歳まで浜中の庄屋屋敷に住んでいました。この屋敷は江戸中期から後期に見られる備中地方南部（岡山県南西部）の庄屋建築の様式を踏襲しており、簡素なつくりの中に地方の名家らしい風格を備えています。一時期空き家になり傷んでいましたが、1977年に里庄町が仁科博士の長兄・亭作の子孫から譲り受け、解体・修復して1982年から「仁科芳雄博士生家」として毎週日曜日に一般公開^{ありもと}しています。生家とは別に、仁科博士の祖父・存本が代官に任命された時に代官屋敷と中屋敷を建てたのですが、残念なことに代官屋敷は昭和の終わりから平成の初めにかけて解体されてしまい、現在はその跡地が住宅地になっています。一方、中屋敷は明治時代に隣の笠岡市のお寺に移され現存しています。

生家の公開をきっかけに、仁科博士の顕彰事業を始めようと1986年に科学振興仁科財団が設立され、1989年に仁科博士の記念館として仁科会館（公民館との複合施設）が竣工し、現在に至っています。仁科会館では仁科博士の生涯や業績の解説、そして最新の科学の話題等いろいろな展示があります。特に2階の第1展示室では、幼少期に書いた絵や習字、家族とやりとりした手紙、教科書やノートや日記、博士が生家で過ごしていた時期の地図、当時の地形が分かるパノラマ写真等、ここでしか見ることができない貴重な展示が数多くあります。

仁科芳雄博士は物理を学んだ人は皆知っていると

と思いますが、出身地はそれほど知られていないようです。筆者は大学、大学院で物理学を専攻しましたが、まわりの友人は誰も博士が里庄町出身であることを（岡山県出身であることも）知りませんでした。



写真1 生石（おんじ）高等小学校卒業写真

当時は尋常小学校が4年間、高等小学校が4年間で、現在の中学2年生に相当。仁科博士とともに筆者の曾祖父が写っている

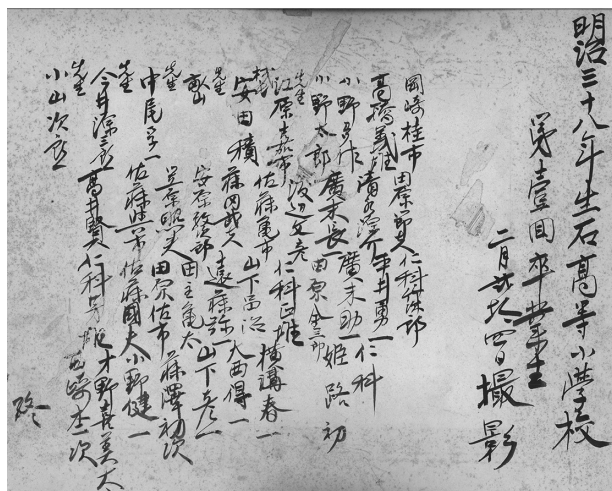


写真2 卒業写真の裏

仁科博士が先生と生徒の氏名を筆で記している。下から2列目の1番左に仁科芳雄、左から4番目に田主亀太の文字。女子の氏名は一部しか書けておらず、当時の雰囲気が見える

筆者が知っていた理由は、曾祖父が仁科芳雄博士と生石高等学校で同級生だったからです。筆者には曾祖父の記憶はほぼありませんが、父や叔母は曾祖父から「仁科の同級生だった」と散々聞かされていたそうです。父は後年、曾祖父が仁科博士と同級生だった証拠を探したものの見つからず非常に残念がっていましたが、なんと仁科会館に生石高等学校の卒業写真（写真1）が展示されており、写真の裏に仁科博士が生徒全員の氏名を筆で記していたのです（写真2）。曾祖父の名前もあり、仁科博士の一面である几帳面さのおかげで、筆者ら親戚一同大変喜んだ次第でした。

さて、里庄町が取り組んでいる仁科芳雄博士顕彰事業について紹介したいと思います。最も大きな行事は、毎年夏の終わりに開催している「ロボットコンテスト」です（写真3）。岡山県の中学生・高校生に数名のチームで参加を募っていて、毎年50～60チームの参加を得ています。生徒自身が創意工夫を凝らして設計・製作したロボットを操作して、競技台に数か所に分けて配置されたいろいろなアイテムを、制限時間3分間でゴールまで運んで得点を競い合います。手作りでロボットを製作してもらうよう、なるべく既製品を使わないことを推奨しています。仁科博士は大学では物理学ではなく電気工学を学んでいたの、顕彰事業としてふさわしいと感じています。

お盆過ぎの土曜日に「理化学研究所里庄セミナー」¹⁾を開催しています。このセミナーでは理化学研究所（理研）から講師2名をお迎えして、最先端の研究を一般の人を対象に分かりやすく講演していただい

ています。筆者が着任して最初に担当した行事がこのセミナーでしたが、もし筆者が高校生の時にこのセミナーが開催されていたらどんなに良かっただろうと強く思いました。また、講師の選定から里庄までの交通手段の手配、旅費宿泊費まで理研が負担してくださることに驚きました。仁科博士は理研で長年にわたり主任研究員として仁科研究室を主宰し、第二次世界大戦の後には理研の第4代所長となり、理研がGHQに解体された時は（株）科学研究所を作り社長として理研の存続に奔走する等、理研に果たした役割は非常に大きく、今思えば当時の筆者はそれらのことをまだ十分に理解していなかったのですが、そうだとでも理研がこれだけご尽力くださっていることには大変感謝しています。

「仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会」は、博士の生誕日である12月6日の前後に開催しています（写真4）。毎年、仁科博士に縁がある研究者を講師にお招きしており、今まで仁科博士の孫弟子・ひ孫弟子にあたる小柴昌俊博士、益川敏英博士、小林誠博士、梶田隆章博士、そして当時の理研理事長であった野依良治博士と、ノーベル賞受賞者が5名も講演してくださっています。それ以外の講師の皆様も西澤潤一博士をはじめそうそうたる顔ぶれです。筆者が講師のお願いを打診するようになってから断られたことは一度もなく、科学の世界における仁科博士の偉大さと、当財団の先人の積み重ねによる伝統の力を強く感じる行事です。

「中学生国内派遣」では、里庄中学校3年生の代表9名を国内の仁科博士ゆかりの場所に派遣して見学しています。理研では世界最大のサイクロトロン、



写真3 毎年夏の終わりに開催するロボットコンテストの様子。会場は里庄中学校体育館



写真4 仁科芳雄博士生誕日記念科学講演会の様子。博士の生誕日12月6日の前後に開催している

理研の歴史が保存されている記念史料室，2022年に完成した仁科記念室等を見学し，他にも国立科学博物館やJ-PARC等を見学しています。かつて日本アイソトープ協会の敷地内（東京・駒込）の仁科記念財団に仁科研究室があった頃は毎年訪れていて，協会の皆様にも大変お世話になっていました（写真5）。仁科博士の故郷から来た中学生ということで，見学先ではこちらが恐縮するほど丁寧に対応いただいています。

里庄町の顕彰事業で最も早く始めた行事が「仁科賞」です。現在は里庄中学校の3年生5名が対象で，学業に意欲的で特に理数系に優れ，創造力豊かでリーダーシップを有する生徒に授与しています。授与式は仁科博士の生誕日12月6日に生家で挙行されます。また，里庄中学校3年生を対象として，皆勤賞，精勤賞，体育賞，文化賞，努力賞，満点賞と，



写真5 里庄中学校3年生の代表が，かつて仁科記念財団にあった仁科研究室を見学した時の様子
案内は仁科記念財団常務理事の矢野安重博士



写真6 仁科芳雄博士生家で毎年3月第2日曜日に観梅会を開催している
数年ぶりに満開のベストタイミングで開催できた2017年の写真

各分野で頑張った生徒に今後の励みとなるよう「仁科芳雄賞」を授与しています。

里庄町内の小学生向けには「科学教室」を開催しています。以前は紙飛行機を作ったり，簡単な科学実験をしたりしていましたが，現在は和風作り教室を開催しています。まず，風が飛ぶ原理をミニ風で体感してもらってから和風作りに取り組みます。最近は工作の機会が減っていますので，ものづくりに興味を持つきっかけになればと思っています。

生家には古い紅梅3本，白梅1本があり，毎年3月第2日曜日に「観梅会」を開催しています（写真6）。地元のボランティアグループが，ぜんざいを作ってふるまってくださいます。それから，生家の梅を収穫して作った梅干しも提供しています。生家は月に1回，地元の住民の方々が清掃奉仕として，屋敷の掃除や庭の草取り等をしてくださいます。また「花いっぱい運動」の一環として，生家の外庭に花を植えて世話をしてくださいます。このように生家は里庄町の皆様の力で大事に守ってきましたが，昭和の大改修から40年以上を経てだいぶ傷んできており，大規模な改修が必要になりました。その資金を募るために，里庄町がふるさと納税型のクラウドファンディングを，2025年の4月から2年間にわたり実施しています²⁾。皆様のご協力をくださいますようよろしくお願いいたします。

仁科博士がデンマークのニールス・ボーア研究所へ留学中に完成した量子力学が，2025年で100周年を迎えます。この機会に，改めて仁科博士の人柄や業績を広く知ってもらえるようお願いながら，これからも活動をしていきます。

参 考

- 1) <http://www.kagaku.nishina.town.satosho.okayama.jp/2025/06/17/riken2025/>



- 2) <https://fcf.furunavi.jp/Project/Detail?projectid=767>



((公財) 科学振興仁科財団)